

ときめき人

Tokimeki bito

和太鼓を通して大きな輪に



「津山創作太鼓」の皆さん。
後列右から2人目が林三治代表。

津山創作太鼓
ホームページ

突然降り出した土砂降りの雨、響き渡る稲妻、やがて雨が止み日差しが差し込む。津山創作太鼓が響かせる迫力の「嵐太鼓」が表現する様子は、観客を魅了する。

「津山創作太鼓」(林三治代表)が結成したのは昭和58年。町内に住む若者が町の活性化を目指して発起した。当初は撥も太鼓もなかったため、津山打囃子保存会の協力のもと活動を開始。地元で開催されるイベントに参加しながら、県や東北のフェスティバルなど活動の場を広げていった。現在の会員は9人。4～69歳と幅広い。演目は、県太鼓連絡協議会の統一曲「鼓音」をはじめ、個人技と組み打ちで激しい撥さばきを繰り広げる「八段打ち」や、ベンチャーズの曲をアレンジした演目ではト

ランペットと競演するなど多様。「発表の場は、自分たちが作り上げた演奏に声援や拍手で反応してもらえる、何よりもやりがいにつながる大切な機会」と話す林代表。「成長し地元を離れた教え子の結婚式で演奏したこともあります。こんなうれしいことはないと感じました」と笑みがこぼれた。

課題は、人口減少に伴い会員も減っていること。「人が集まれば太鼓をたたいてみたいという人も増えると思う。人を増やすための取り組みを地域全体で考えていきたい」メンバーは思いを語る。

「私たちは誰かと競って優勝を目指しているわけではありません。みんなが輪になって楽しむことを大切にしています」同じ思いの仲間たちは、津山の空に力強い太鼓の音を響かせる。

編集後記

▼「第21回みやぎふるさとCM大賞」の収録に参加しました。今回は、登米総合産業高校写真部の皆さんが作品を応募。普段は写真を撮影している生徒たちが、登米市の魅力を伝えるため試行錯誤しながら映像に挑戦しました。一生懸命作った作品をぜひご覧ください。

(白石)

▼ときめき人「津山創作太鼓」の皆さんが出演すると伺い、3年ぶりに開催された「登米太鼓フェスティバル」を見に行ってきました。体の芯まで響くエネルギー溢れる太鼓の音。出演した7団体の合同演奏「鼓音」では、感動で胸がいっぱいになりました。(渡邊)

▼緊張した面持ちを見せながらも、凛とした佇まいの中学生議員の皆さん。市の発展を願うさまざまな分野、角度からの質問にただただ舌巻。本市の未来をしっかりと担ってほしいと思います。ひるがえって同じ世代の我が子たち。居住まいを正さなければと思います。(佐々木)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tomiyagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>